

3月の目次 Menu

- 02 シリーズ 駅
Vol.03 大船渡線「矢越駅」
- 03 I(愛)な人 いちのせきを愛する人
佐藤修司さん 今が最盛期の四つ葉のクローバーを栽培
- 04 COVER STORY
菊地タカノさん 大東町猿沢
- 05 特集 千厩の女性たちがつくる春の風物詩
せんまやひなまつり
- 14 百年目の寿
小山まさ子さん/千葉嘉子さん/金澤純一さん/今野泰治郎さん
- 15 児童・生徒・学生 顕彰式
文化やスポーツで活躍した個人団体を顕彰
- 16 写真特集 水躍る
一関市・大東大原水かけ祭り
- 18 まちのトピックス
一関・祭時スノーランドで「一関雪まつり」/花泉総合福祉センターで「教育振興運動」/大東バレーボール記念館で「フラダンスを楽しむ会」/千厩アイスアリーナが待望のオープン/東山地域交流センターで「チョコレートのおかしづくり」/室根・老人クラブ高砂会が「救急救命講習」/川崎農村環境改善センターで「新酒発表会」/藤沢・大籠キリシタン資料館で火災防御訓練
- 20 市民の広場
笑顔でGOOD(佐藤一樹さん)/キッズ写真館/ふれーふれークラブ(山目中)/ウチのこ自慢/図書館だより/オスメイメント
- 22 3月の健康コーナー
3月の健康情報/休日当番医/健康塾(佐藤隆次医師)/元気のひみつ(藤江 元)
- 24 3月のお知らせ
市営住宅など入居案内/掲示板/文化財探訪/博物館催し物案内/地デジの準備はお済みですか?/募集/催し/講座/相談/お知らせ
- 29 PICK UP
藤沢・長徳寺で映画「一遍上人」のロケ
- 30 NEWS HOTLINE
千厩でソフトボールフェスティバル/2012yosakoiフェスタインすりさわ/小中高連携バレーボール指導会
- 32 わたしの夢
大友美侑さん 一関小6年

COVER STORY

市内初の食改名誉会員賞
食事の基本は薄味の手作り料理

大東町猿沢の菊地タカノさん(91)は、食改さん26年目。全国食生活改善推進員団体連絡協議会から平成23年度名誉会員賞を受けました。同賞は90歳以上の会員に贈られるもの。市内で初めての受賞です。



「食改さん」とは市内に約780人いる市食生活改善推進協議会会員の通称。食生活の面で地域の健康づくりを支える活動を行っています。

「自分の健康は自分で守ることが大切」と、食事に気を使うタカノさん。塩分を減らして、1日に30品目を目標にバランスよく



食べます。ゲートボールをしたり、俳句、短歌を詠んだりと多趣味。見せる笑顔は健康あつてのものです。

1月27日に大東保健センターで受賞のお祝いが行われた。大東支部に所属する菊地タカノさん(前列中央)を熊谷清子市食改会長(左から2人目)と大東支部の理事が囲んで受賞を喜んだ。

岩手県一関市
Ichinoseki City

東北のほぼ中心、盛岡市と仙台市の中間にある一関市は古くから岩手県南、宮城県北エリアの中核を担ってきました。2005年9月20日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村が合併。'11年9月26日には藤沢町と合併し、「人と人、地域と地域が結び合い、未来輝く いちのせき」を目指して確かな歩みを進めています。



■面積 1,256.25km² ■人口 128,200人(男62,101人、女66,099人) ■世帯数 45,616戸 ■市花 なのはな ■市木 ぶな ■市鳥 うぐいす(以上2012年2月1日現在)

いちのせきの広報誌

I-Style

いちのせきスタイル
2012年3月1日号
No.155



I-Style(いちのせきスタイル)は、岩手県一関市が発行する広報誌です。中東北の拠点都市を目指して独自のスタイルで前進する誇り高きいちのせき(Ichinoseki)のインプレッション(Impression=感動)、インテリジェンス(Intelligence=知的情報)とインフォメーション(Information=お知らせ)を伝え、古里の魅力を、価値を、エネルギーを発信する情報誌です。3月1日号の印刷経費は1部28円です。本誌は一関市のホームページでもご覧いただけます。旬な情報を画面上でもお楽しみください。

一関市ホームページ <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp>

ひな祭りの起源は古代中国の「上巳節」(3月上旬の巳の日)。災いをもたらす邪気が入りやすい季節の変わり目に、けがれをはらったと伝えられています。これが江戸時代、遣唐使によって日本に伝わり、「上巳の節句」は五節句の一つに定められました。以来、3月3日は女子の節句として定着。邪気をはらう神聖な桃の木の開花期と重なることから、「桃の節句」とも呼ばれています。

千厩の女性たちがつくる春の風物詩

せんまやひなまつり

本市の「せんまやひなまつり」は今年が5回目。手作りのまつりには、県内外から多くの人が訪れ、商店街は活気にあふれています。過疎化、少子高齢化が進む中で、女性が担う役割は年々重要性を増しており、女性の活躍抜きに地域の活性化は語れません。

「せんまやひなまつり」は女性たちがつくる春の風物詩。現場に密着して元気な地域を再生するヒントを探ります。

